

同点優勝「よく頑張った」



高校ラグビー北大大会 芦別・羽幌・富良野

札幌月寒ラグビー場で28日に行われたラグビーの全道高校北選手権大会決勝で、芦別・羽幌・富良野3校の合同チームは昨年度の覇者、遠軽と対戦。17-17の同点でノーサイドになり、両チームともに優勝となった。芦別勢の優勝は、1989年度の単独チーム以来35年ぶり8度目。抽選で全国(花園)出場は遠軽に決まったが、応援席に駆け付けた選手の父母や友人らは「よく頑張った」と奮闘をたたえた。

花園切符逃し 選手ら悔し涙

合同チームは、前半に

芦別の吉田祐選手らが2トライを決めるなどして12-5でリード。後半は一時逆転を許したが、再び吉田選手のトライで同点に追いつき試合が終了した。その後の抽選で遠軽の花園行きが決まった。

後半、芦別・羽幌・富良野合同チーム3本目の同点トライを決める吉田選手(中央)＝
梶中直樹撮影

た。

選手たちは、悔し涙を流しながらも、応援席の家族や友人らに向けて深々と頭を下げ、「ありがとうございます」と感謝の言葉を述べた。

芦別高ラグビー部は1949年に創部。これまで全国大会に7度出場した実績があり、空知管内の高校では唯一ラグビー部がある。ただ近年は部員不足で1チーム(15

人)を組めず、21、23年度に続き今回も他校と合同チームを組んで出場することになった。

芦別高の小野晴也主将は「全力を出し切り、自分たちらしく走り回るラグビーができたが、花園に行けなくて悔しい」と涙した。同校の松浦新監督は「遠軽相手に臆することなく、タックルで良く止めたし、攻撃も頑張った。優勝は優勝だ」と選手の奮闘をたたえた。

芦別高は全校生徒約120人が応援に駆けつけ、選手たちに声援を送った。ラグビー部員たちとは友人という清沢玲さん(3年)は「はらはらして心臓が口から飛び出しそうだった。すごい試合だった。選手たちがここまで努力してきた結果だと思う。感動して泣きそうです」と述べた。

2トライと活躍した吉田選手の母、亜希さん(47)は「きょう息子は緊張していたようだったが、トライできて良かった。花園に行けなかったのは残念ですが、よく頑張った」とねぎらった。

(安戸透)